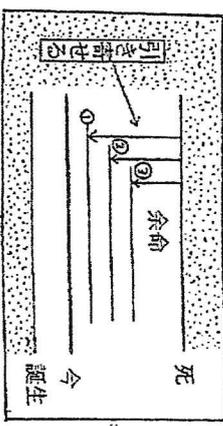


(1961:19歳の秋~1964:22歳の春)

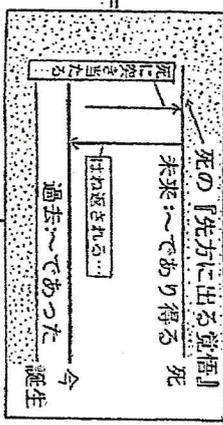
『瞬生五十年』による『死の不安の解消』

目的無・『瞬生五十年』



余命を今というこの一瞬に引き寄せて生きる。一瞬一瞬に人生は完成する。

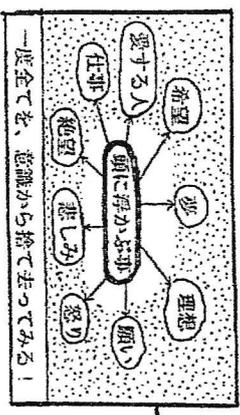
ハイデガールの『存在と時間』



人間の存在は、~であった、そして~であり得るに向かつての存在(今)である。

『瞬生五十年』の具体的・段階的方法

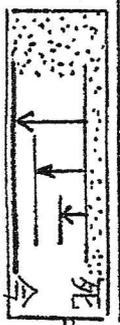
- ① がんの宣告・余命の告知...頭の中が真っ白になる。
- ② 頭に浮かぶ事をそのまま、メモ帳等に書きなぐる。



思考・思いの発散 (書きなぐり) (求め尽くす)

頭の中が空っぽになる。(求める意識が消える)

- ③ 『瞬生五十年』の実現

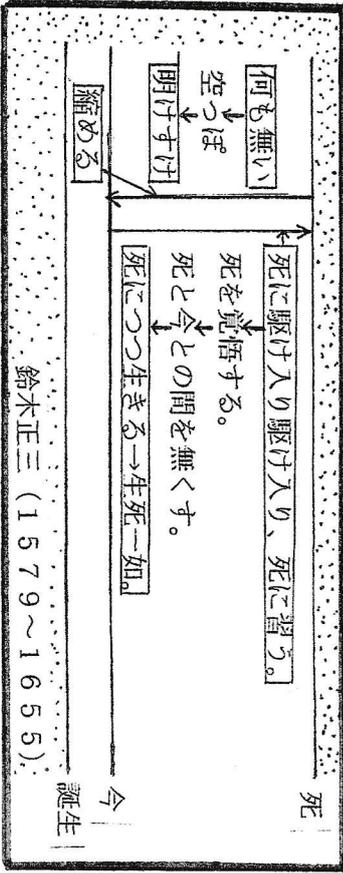


一瞬は全人生を含むので常に人生は完成している。

- ④ 一瞬 人生の完成

求めるものがなくなる。

鈴木正三...死の際(すき)を明ける



鈴木正三 (1579~1655)

完全に空っぽにならなくても、空っぽになった分だけ、心が開放され、自由な発想(名案)が可能です。...「死の不安」かなり解消。

よし、これでよし

ありがとうとほほえみ

の終焉！ (おわり)

死生学研究会資料 ③2016/7/24

第23回 ハイデガール・鈴木正三と、瞬生五十年

死生学研究会
Thanatology Research Center
TEL 042-624-1355

©2016 死生学研究会